

JFMA公共インフラマネジメント連続シンポジウム概略報告 (2/2)

第3回	開催日	平成30年11月17日 (土)	
	テーマ	橋の調査・点検・診断の近未来展望 (AIの活用)	
	コーディネーター	鈴木 泉氏 SLIM Japan副理事長	「健全な維持管理をするために、何をどのように変えれば良いか。少し視点を変えて見る」
	基調講演	宮本文穂氏 山口大学名誉教授 SLIM Japan理事	「橋の健康診断と余寿命推定」 ・橋梁などの現状を健康診断 (評価・判定) し、必要に応じて治療・リハビリ (補修・補強) する「建造物の医者」のようなシステムの構築が必要 ・橋の基本構成と役割、劣化を引き起こす要因を正しく知ること、インフラドクターの育成が必要、今後AIを適用する前にいろいろな要素を理解することが肝要
	パネルディスカッション	山中鷹志氏 SLIM Japan理事 前(財)海洋架橋・橋梁調査会	・合理的な点検、分かりやすい評価法、保全・補修技術、管理手法の確立を ・中小小市町村の広域組合の設立 (広域消防のように) と組合での管理
		澤 健男氏 前国土交通省	・コンクリート建造物の再劣化が生む負の連鎖、補修後のトラブルに事例、特に塩害対策について解説
窪田 諭氏 関西大学准教授		・維持管理の日常履歴データをIT技術で効率化を目指す方法 ・土木工学と情報システムとの融合についての近未来の可能性	
シンポジウム参加者数、主な意見	浅野和香奈氏 日本大学工学部 研究員 「インフラメンテナンス国民大賞受賞」	・市民協働事例として市民でも橋の点検が出来るチェックシートを作成、活用することで地域での予防保全活動となった、また各地で点検・清掃活動と広がっている ・インフラ対しての関心・愛着に繋がるセルフメンテナンスを強調	
主な成果	30名	・複数年の包括契約は新しい点検技術を加速させるのでは ・近接目視に変わる技術革新も必要で全橋点検の見直しも必要では ・橋も人と同じで寿命が分かれば何をすべきか分かる ・橋のセルフメンテナンスは予防保全モチベーションの向上策だ	
主な成果		橋の維持管理など具体的な内容を取り上げて地方インフラの現実を知り、見えなかった問題解決の方向性が共有できた	
第4回	開催日	平成30年12月15日 (土)	
	テーマ	民間セクターの活用 (民間資金PPP/PFI事業の活用)	
	コーディネーター	鈴木 泉氏 SLIM Japan副理事長	「民間セクターの活用について議論し、共有したい」
	基調講演	海藤 勝氏 SLIM Japan理事 英国仲介士	1.官民パートナーシップ事業スキームの基本 2.鋼橋セクターのコミットメント 3.リスク分担とVFM (バリューフォーマネー) 4.インフラマネジメントとインフラメンテナンスについてPFI事後の重要なところを分かり易く海外実績から説明 ・米英と日本のPPP/PFIの決定的な違いは、競争に耐えうる然るべき事業会社が担うべきだが、日本は建設リスクに対する認識が薄いため事業会社にスクリーニングを掛けなければならない
	パネルディスカッション	管 健彦氏 インフラビジネスJAPAN編集長	・日本の公共インフラの投資は予想通り鈍く、民間のインフラ投資特にエネルギーは活発であり、海外進出も予想外に多い ・民間の施設の候補地選定に、民が官を選ぶという逆転現象が起きて、これからはコンテンツホルダーが主導権を握る時代になる ・従来のインフラ運営は公共セクター主導であったが「投資」が加わることで事業が激しく評価され、活性化する
		中川 均氏 (株)白糸ハイランドウェイ代表取締役	マネジメントの実際を紹介 ・道路を買収し、地方自治体の抱える課題と同じ諸問題を一つずつ解決してきた ・地域協働ワークショップからサービスレベルを設定し、維持管理コストを可視化しスタッフ全員のコストとサービスの意識を高めた
シンポジウム参加者数、主な意見	30名	・箱物に比べ道路などのインフラはリターンが分かりにくい ・政府が具体的にどうコミットメントすればPFIが加速するか ・社会インフラも民間セクター側から動き出す可能性は ・首長のやる気、覚悟が無いと職員意識は上がらない	
主な成果	公共インフラの現状を知り、FM活動を如何にマネジメントに活かすか、この方策を考えるのに相応しい最終のシンポジウムになった		